

2022年度事業計画書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

I 事業方針

生物と同様、組織にも誕生してから成長し、成熟期を迎え、やがて衰退していくというライフサイクルがあるとされています。そしてそれぞれの段階に応じた課題があり、対策を講じていく必要があります。

ロゴス点字図書館（以後、当館）は前身のカトリック点字図書館の時代から数えると2023年で創立70周年を迎えます。これほどまで長い期間にわたって事業を継続できているのは、時代や環境の変化に適応しながらも、利用者のニーズにしっかり応えてきたからにほかなりません。また元館長である橋本宗明氏が当館創設時に構想した「考える図書館」という理念は、今なお組織のDNAとして息づいており、当館の存在理由やあるべき姿を明確に照らし出しています。

外部環境が急速なスピードで変化している今、もし時代に適応した対応を怠ったとすれば、組織は衰退の道を進むことになります。視覚障害者を取り巻く状況も、利用者のニーズも、決して一様ではありません。そのような動きに常に敏感に反応し、恐れず新しいことに前向きにチャレンジしていく姿勢こそが、組織を衰退から再生、さらには次の発展段階へと向かわせる大きな原動力となります。

これから迎える創立70周年という歴史に甘んじることなく、そこに新しい息吹を吹き込み、未来を切り開いていくための一歩として2022年度の重点施策を下記の通り定め、事業計画を作成しました。

II 重点施策

1 電子書籍（テキストデイジー）製作体制の整備

点字図書館で取り扱う図書の形式は点字図書と録音図書が中心であり、それは今も変わっていませんが、技術の進歩や利用者ニーズの変化とともに、最近は電子書籍が選択肢の一つになりつつあります。電子書籍には様々な形式がありますが、点字図書館などの視覚障害者情報提供施設では「テキストデイジー」に注目が集まっています。

テキストデイジーとは、書籍のテキストデータを録音図書と同様にデイジー形式で編集したものです。利用するためには対応した専用の再生機器もしくはスマートフォンアプリが必要になります。

利用者にとってテキストデイジーの利点は、音声デイジーと同様検索性に優れていること、音声ファイルに比べてデータ容量が小さいこと、好みの合成音声で再生できること、文中の漢字を詳細に確認できることなど多数あり、ディスレクシアなどで活字による読書に困難を抱えている他の障害の方にも利用が広がっています。また製作面からのメリットとして、点字や録音と比較して製作時間が短いことが挙げられます。

当館ではこれまで試験的に数タイトルを製作したのみで、必ずしも積極的な導入には

至っていませんでした。しかしながらその有用性と可能性を勘案し、点字図書と録音図書に次ぐ三つ目の形式として本格的にテキストデイジー製作に着手します。本年度はその準備として製作に必要な機材をそろえるとともに、製作のフローを整備します。また、外部講師による研修を実施し、製作者の育成を図ります。

2 ICTサポートの拡充

情報技術の進展に加え、読書バリアフリーやアクセシビリティの概念が社会でも徐々に定着してきました。これによって以前とは比較にならないほど視覚障害者の情報環境は向上しています。

その一方で新たに課題となっているのが、情報にアクセスするためのITリテラシーの有無によって、同じ視覚障害者間で大きな情報格差が生じている点です。これまでの点字図書館など視覚障害者情報提供施設では、そのまま読むことのできない情報を点字や音声にして利用者に届けるのが主要な業務でした。それに加え、今の情報社会においては、情報にアクセスするための方法を適切に案内することが重要な役割になっています。例えば前掲のテキストデイジーについても、そのデータを取り扱うための機器類やアプリを利用者が使えないのだとしたら全く意味がありません。一部の恵まれた人のみが便益を享受できる状況を改善し、誰もが必要な情報にアクセスできるようにすることが、社会福祉法人施設としての責務であるべきです。このような状況を踏まえ、当館では本年度よりICTサポートの拡充を行います。

一つは直接ご来館いただける方を対象とした個別教室の実施です。当館では地域貢献の一環として中途失明された方を対象に点字教室を実施してきましたが、スマートフォンやデイジー再生機の使い方を希望者のニーズや習熟度に合わせてお伝えします。

もう一つは直接ご来館いただけない方を対象とした相談業務の強化です。これまでも問い合わせがあった際には柔軟に対応してきましたが、定期的にオフィスアワーを設けることで確実な対応ができるようにするとともに、サービスの周知を図ることで当館の利用促進につなげていきます。

3 ホームページを活用した情報発信の強化

とりわけ当館のような小規模な施設が利用者や支援者を増やすには、より多くの方に理念やサービス内容を知っていただき、信頼感を醸成していくことが極めて重要です。それにはインターネットを効果的に活用することが有効とされています。

前年度はホームページをリニューアルし、様々な端末からアクセスしていただきやすい環境を構築しました。本年度は理事長や館長によるメッセージの発信、当館発行の刊行物の内容一部公開、ICTや視覚障害にまつわるコラムの連載など、コンテンツ内容の充実を図り、アクセス数の向上、ひいては利用者数・支援者数の拡大を目指します。

Ⅲ 事業計画

1 蔵書の貸出・製作

貸出については、他館との相互貸借を積極的に行い、「考える図書館」という当館の理

念に基づく蔵書を強みとして、幅広い図書の利用を促します。また前年度より引き続きデ
イジー図書再生機の貸出を実施し、テープ図書からデイジー図書への利用を促します。

製作については、利用者のリクエストの中から当館の理念に合致する図書を選ぶのを基
本としながら、古典的名作でまだ製作されていないものについても可能な範囲で対応しま
す。最新の図書については自動点訳の技術を取り入れたり、テキストデイジーの製作を並
行して行うことで、製作時間の短縮を目指しながら、利用者の選択肢の幅を広げていきま
す。新規タイトルの製作数については、点字図書25タイトル、録音図書20タイトルを
目標としています。なお録音図書については、新規タイトルとは別に、「フィラデルフィア
会・声の文庫」から移管されたテープ図書を160タイトルデイジー化します。

なお、カセットテープ図書の製作と貸出については、製作資材の価格高騰、機材の老朽
化、利用者数の減少を踏まえ、本年度より新規タイトルの製作を終了し、既存図書の貸出
のみ行う対応に変更します。

2 ボランティア養成

点字図書製作では、点訳ソフトの最新機能であるBESXの利用促進を図るため、ボラ
ンティア間でのサポート体制の充実を図ります。それと並行して、点訳・校正勉強会を毎
月（計12回）開催し、スキルとモチベーションの向上を図ります。

録音図書製作では引き続き、音訳勉強会と音訳校正勉強会をそれぞれ月1回（8月は除
く）の頻度で開催します。音訳勉強会の偶数月は、外部から講師をお招きします。

上記のほか、点字図書製作と録音図書製作相互の交流及びノウハウの共有を目的に、点
訳・音訳合同勉強会を試験的に実施する予定です。

3 利用者サービス

利用者のご希望を踏まえた図書の検索や案内を行うレファレンスサービスのほか、ご希
望のあった図書でまだ製作のないものについてはプライベートサービスとして柔軟に点
訳・音訳を行います。情報支援の観点から、プライベートサービスではホームページや小
冊子などの情報についても柔軟に対応します。また対面朗読サービスについてはホームペ
ージやリーフレットでの案内を通し、引き続き利用を促します。

また就労や生活での困りごと、パソコンやスマートフォンなど最新IT機器類の操作方
法、そのほか障害によって生じる人生の悩みについて、ご本人またはそのご家族からの相
談に対して、当館の当事者職員が随時対応します。

4 地域貢献（点字教室、ICTサポート）

周辺地域にお住いで直接来館できる方を対象に、中途失明者向け点字教室を引き続き実
施します。自身も中途失明当事者である方を講師に、受講生のレベルやニーズに合わせて
月2回、1コマ60分の単位で個別に開講します。

点字教室にくわえ、本年度よりICTサポートを拡充します。小規模施設であることを
活かし、集合研修による講習ではなく、個々のニーズに柔軟に対応してプログラムを作成
し、スキルの習得を目指す方針で教室の開設や相談対応を行います。講師は生活相談と同
様当事者職員が行います。

5 啓発活動（恒例行事）

毎年恒例のチャリティ映画会を11月4日（金）夜、なかのZERO大ホールを会場に開催します。上映作品については年度初めに有識者に助言をいただいて決定します。但しコロナ禍の状況によっては開催できない場合があります。なお講演会「ロゴスの文化教室」については、今年度の実施を見送りました。

6 定期刊行物・出版

支援者向けニュースレター「通信あけのほし」を年4回、利用者向け新刊図書案内「ロゴスのほん箱」を隔月（偶数月）、また有料のものについては、カトリック教会のミサで用いる「聖書と典礼」点字版を毎月発行します。

これまで発行していた当館オリジナルの点字雑誌「あけのほし」は前年度末で発行を終了しました。また、これまで点字版のみ発行していた「聖書と典礼」について、利用者からの要望をもとに録音版の製作を開始します。本年度中に製作体制を整え、来年度からの事業化を目指します。

なお、「ロゴスのほん箱」についてはこれまでの点字版・録音版の郵送及びホームページでの掲載に加え、インターネットの電子図書館「サピエ」にデータを登録し、自由にダウンロードしてご利用いただけるよう対応します。

7 関係機関との連携

2022年度は参議院選挙が確実に行われることから、全国の各施設が加盟しているプロジェクトの一員として、点字版「選挙のお知らせ」の製作に協力する予定です。

また読書バリアフリー推進計画が各地で策定されている流れを受け、江東区及び近隣地域の公共図書館を訪問し、新たな連携の可能性を模索していきます。

その他、全国の視覚障害者情報提供施設が加盟している全国視覚障害者情報提供施設協会（全視情協）、日本盲人社会福祉施設協議会（日盲社協）の会員として、各委員会や部会の活動に協力し、視覚障害者の情報提供における課題解決に取り組みます。

8 各種規定類の見直し

近年の働き方改革に伴う法令の改正や長期化するコロナ禍の影響で、業務の内容や進め方に少なからず変化が生じています。また旧来の事業廃止や新事業の立ち上げなどを受け、よりの確に現在の事業を反映するための勘定科目の見直しの必要性が課題として持ち上がっています。

そのような状況を踏まえ、2022年度は各種規定類を見直し、現状により適合した組織体制の構築を進めます。

9 法人業務・会議体

2022年度は理事会3回、評議員会1回を予定するほか、辞任を希望された評議員1名の後任を選出するため、評議員選任・解任委員会を開催します。